

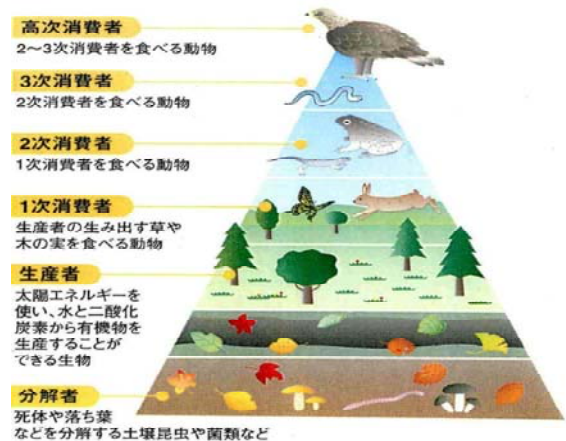
◆ オオタカ、イヌワシ等の生息と調和した森林施業

群馬森林管理署（群馬県）、中越森林管理署（新潟県）

【取組概要】

林業と生物多様性確保の両立を目指すため、森林施業を見直し、生物多様性の指標となるオオタカ、イヌワシの生息しやすい環境を創出することで、生物多様性に富んだ森林づくりを実践する。

※ 高位の消費者は、下位の生態系が無いと生存できない。よって、高次消費者が生育している生態系では下位の生態系が整っており、高次消費者であるオオタカ、イヌワシの生息が森林生態系の指標となる。



【取組状況】

群馬署での取組

<生息環境の整備>

- 事業実行段階では、伐採系森林整備の中で小面積皆伐等を実施し、伐採後は天然更新とし、オオタカの生息環境改善を目指す。

<モニタリング状況>

- H21年度に策定した「オオタカモデル森林管理経営計画書」に基づき、H22年4月より「オオタカモデル森林における調査研究」によるモニタリングを開始。
- 「オオタカモデル森林における調査研究」によるモニタリング調査
 - ・ 鳥類相調査
 - ・ 森林構造調査
 - ・ 林相調査
 - ・ オオタカ等生息状況調査
 - ・ 鳥類相と森林環境の分析
- H22年のオオタカの繁殖状況は、3羽の雛が孵化し、うち1羽の巣立ちを確認。
- H23年1月、H22年度モニタリング調査の結果を踏まえた委員会を開催。
オオタカの雛と親鳥



オオタカモデル森林全景



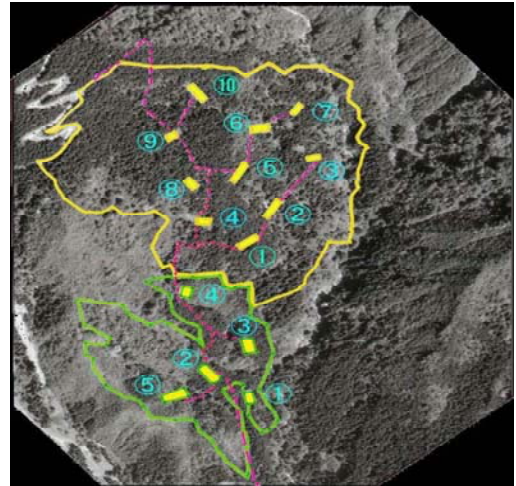
中越署での取組

<生息環境の整備>

- H15、16年度に28haの実験林を設定し、小面積伐採空間を15カ所分散配置。伐採空間内の植生、餌動物変化、イヌワシの飛来・採餌等について調査してきた。

<モニタリング状況>

- 現在までの調査結果
 - ・ 草本層植被率の増加
 - ・ 広葉樹の生長・種数の増加
 - ・ ノウサギの糞粒数の増加
 - ・ イヌワシの飛来頻度の増加
 - ・ イヌワシ産卵期の早まり
- H22年度に今後の施業方法について、新潟県イヌワシ保全研究会を交えて、3度の打合せを実施。
- H22年度に署の会議室において、これまでの取組についての講演会を実施。県、市町村、森林組合等、約40名が参加



スギ人工林内に15区の伐採空間を配置



講演会の様子(中越署)

【今後の予定】

- 群馬署では、引き続き「オオタカモデル森林管理経営計画書」の方針に基づき、モニタリング調査を実施
- 中越署では、調査の継続、施業方法を検討し、次期森林計画（H25～）への反映を図る。また、H23年度にも取組紹介のための講習会を実施を予定。